

# どうぶつこうえん ニュース



No.34

1999

冬

トピックス

## トナカイ 偶蹄目 シカ科

「トナカイ」といえば、サンタクロース。雪道を上手にソリを引く動物。そんな想像をする人が多いでしょう。

トナカイは、ヨーロッパ・アジア・北アメリカの寒帯に生息し、ノルウェーやシベリアでは古くから家畜として飼われています。

トナカイはシカの仲間ですが、他のシカとは異なる点がいくつかあり、シカの角はウシなどの角とは違い、1年に1度角が落ちて生え変わります。トナカイも同様ですが、雄だけでなく雌にも角があります。そして、角の落ちる時期が雄雌では違うため、写真のように角のあるものとなないものが存在するのです。（一般的に雄は12月頃、雌は4月頃角が落ちます）また、トナカイは皮膚が裸出している部分がなく、鼻先までも毛で覆われています。ですから雪の中の植物でも、さほど苦にせず探して食べられるのです。もし“真赤なお鼻のトナカイさん”がいるとしたら、それはしもやけになったトナカイさんで、そのようなトナカイはまずいないでしょう。その他、雪道で滑らないよう足（蹄）が大きいのも特徴です。

今年の夏（8月5日）、当園のトナカイに子どもが1頭誕生しました。しかし、このおめでたい話には少々問題がありました。トナカイの出産は通常5～6月頃でそれほど暑くない季節にみられます。トナカイは北国の動物、暑さには弱く、まして子どもならなおさらです。何もこんな暑い季節に産まなくても…と思いながらも、



父親（右）・母親（左奥）

扇風機2台に氷を使用してこの夏を乗り切ってもらう事となりました。とにかく今年の夏は暑く、当初、みなさまの前に登場できたのは、夕方少し涼しくなった30分程でした。そして、少しずつ涼しくなるにつれ、展示時間も長くなり、母と仔で追いかけてっこをしたり、池で水浴びをしたり、今ではヤンチャ盛りです。しかし、不安になったり、甘えたりする時は「アウツ、アウツ」と鳴いて母を呼んでいます。これから冬にかけて、発情期となり、おとなしかった雄が気が荒くなるので、子どもの身も安全とはいえません。よって、みなさまの前に登場できるのも、残念ながら少なくなってしまうかもしれません。もし、子どもの姿をご覧になったら応援してあげてください。

中村 彰宏 (Akihiro Nakamura)

## 目次

CONTENTS

表紙【ギンケイ】	①
トピックス【トナカイ】	②
特集【写真コンクール】	③
飼育レポート	
【モモコのお嫁入り】	④
こどもどうぶつえんへようこそ	⑤
動物公園の植物 ⑩【エノキ】	⑥
健康管理センターから【スローロリス新着】	
動物公園日誌から【'99.7/1～'99.9/30】	⑦
編集後記	
裏表紙【モルモット】	⑧

## 表紙の動物説明 ギンケイ

ミャンマーの標高2000mぐらゐの山里からチベット東南部や雲南の5000m前後の高地の斜面林や竹叢に生息し、草木の芽や若葉、昆虫、ミミスなどを食べて生活しています。雄には襟に、縁が青黒色の白い鱗斑状の飾羽があり、これを扇状にひろげてディスプレイします。同じ仲間のキンケイと共に、美しく丈夫で飼いやすいため飼鳥として人気があり、多くの動物園で飼育されています。

秦 舜二 (Shunji Hata)

## 動物飼育数

平成11年10月末現在

Classified number of animals as of 31. Oct. 1999

哺乳類	68種366点	両生類	1種	1点
鳥類	86種368点	魚類	2種	7点
爬虫類	5種	21点	総計	162種763点

特集

最優秀賞



ひげ自慢 / 小前清子



平成11年度

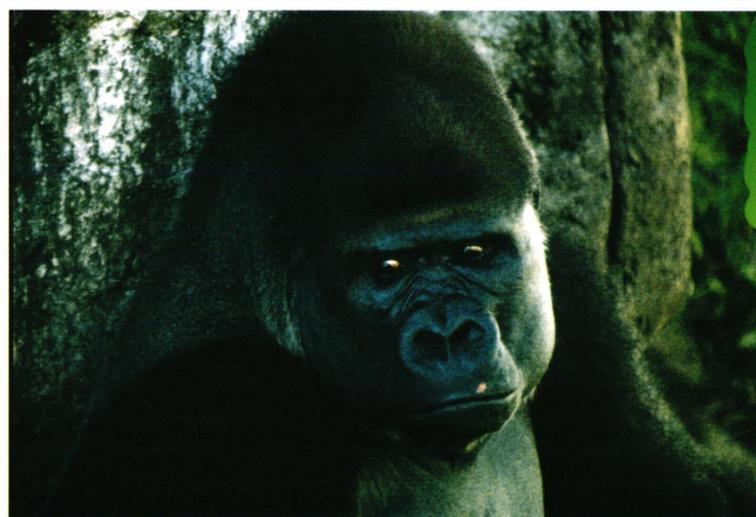
# 写真コンクール

最優秀・優秀作品



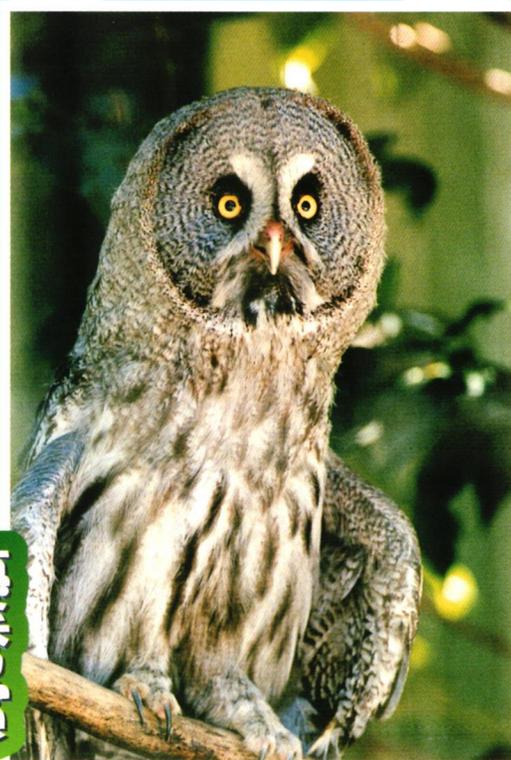
姿 / 岩間進

優秀賞



ボス / 吉田金造

優秀賞



優秀賞

プロフィール / 竹内朗

## モモコのお嫁入り



新居に移ったモモコ（右）とビジュ 東京動物園協会提供

日本動物園水族館協会種保存委員会の依頼により、今年の7月27日に当園からモモコ（雌のゴリラ）が、東京都恩賜上野動物園のビジュ（雄のゴリラ）の所にお嫁に行きました。今では群れにもなれ、ビジュともうまくやっているようです。

## 日本のゴリラたち

動物園でのローランドゴリラの飼育は、1958年11月17日に上野動物園に3頭（雄2／雌1）が来園したのが最初です。1960年代には23頭（12／11）が飼育されていましたが、1970年代には34頭（18／16）、1980年代では45頭（24／21）と増えてきましたが、1998年末には15園館で36頭（18／18）が飼育されるのみで、高齢化も進み、このままでは近い将来日本からゴリラがいなくなってしまう。ちなみに今まで90頭が飼育されていますが、繁殖は7例でその内大人になったのは5頭にすぎません。

（社）日本動物園水族館協会種保存委員会の対応

日本の動物園が手を拱いていたわけではなく、1988年に日本動物園水族館協会は種保存会議を発足させ、絶滅の恐れのある動物を繁殖させる計画を打ち出し、上野動物園がゴリラを担当することになりました。上野動物園では新しくゴリラの飼育場を造り、群れづくりから始めました。これに全国の動物園が協力し、ゴリラが集められました。しかし、集められたゴリラたちは1頭（雌リラコ）を除いて交尾の仕方も知りませんでした。そこで繁

殖経験のある雄ゴリラをイギリスより輸入し、再度挑戦することになったのです。計画にもとずき京都市動物園からゲンキ（雌15才）、静岡市立日本平動物園からトト（雌21才）が上野動物園へ移されました。

## モモコも上野へ

当園にはゴロ（雄32才）、モンタ（雄15才）、モモコ（雌17才）の3頭のゴリラがいますが、モンタとは姉弟のように育ちましたのでモモコに対し交尾動作は1度も観察されませんでした。ゴロはそれを打開できないかと大阪市

天王寺動物園から来たのですがモモコをいじめるばかりです。種保存委員会の仲介で上野動物園と共同繁殖計画が進められ、環境庁からお許しが出来ましたのでモモコを7月27日上野動物園へ移動することになりました。前日の26日、麻酔をして輸送用のケージに収めました。ケージの中で最後の夜を過ごしたモモコは27日午前9時30分トラックへ積み込まれ、報道の取材も済み、みんなに送られて、午前10時10分上野動物園へ向けて出発しました。午前11時20分に到着し、直ちに寝室へ収容されましたが、その際体重を測定したところ123kgでした。上野動物園飼育課長と飼育担当の黒鳥さんのお話では9月1日ビジュといっしょにしたところ交尾をしたそうです。「どちらかというともモモコの方から求めていったようだ」とのことでした。翌日からは交尾はみられず、リラコが刺激されたのが交尾をしたそうです。

しかし、私たちはこんなに順調にいくとは考えてもいませんでしたので、来年の春を楽しみにしていましたが、この交尾は妊娠には到らなかったようです。

ところが、10月26～27日、東京の臨海副都心で第11回種保存会議が開催され、その席でこの結果が報告され、動物園関係者の期待が高まった翌日の28日、突然ビジュが他界してしまったのです。しかし、その前にビジュとモモコは交尾をしていましたので、まだ淡い期待は残っています。広島市安佐動物公園では雄のチンパンジーが死亡しましたが、その睪丸から精子を取り出し保存し、人工受精をしたところ見事に受精に成功しました。同様にビジュの精子でモモコを妊娠させたいものです。

宗近 功 (Isao Munechika)

# こどもどうぶつえんへようこそ

Welcome to Children's Zoo

## ～子ども動物園での動物体験学習 ③～

### ウサギ・ネズミ類などの世話体験

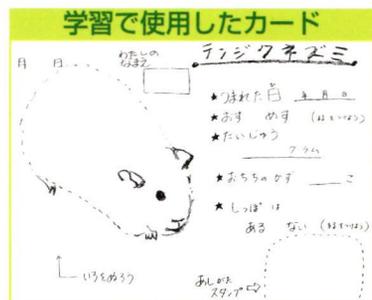
子供たちは動物の世話をするという実習をどのような事だとイメージしてくるのでしょうか。「世話」とは、実際多くの「手間のかかる、時には面倒な作業の積み重ね」のことで、小学校1、2年生の子供たちにとって、そのイメージはあまり鮮明なものではないようです。餌を与える、獣舎を掃除するというように「言葉としての世話」はわかるのですが、動物それぞれの生活要求にあった「餌」や「掃除」はやはり体験を通して理解されるものようです。

手のひらに乗るようなハツカネズミを相手にすると、小さいのに1匹1匹にちゃんと指があり爪もあり、そして結構力強いしっぽもあって、というひとつひとつにまず驚きます。そうした驚きや感動があって、ネズミたちのために過ごしやすい環境を整えることにも気持ちが向くようです。中にはしっぽが少し曲がってしまったり、赤い目が少し濁っている個体を見つけて、「どうしてそうなっちゃったの？」と係に聞いてくる子供もいます。「もう、みんなに触られ続けておばあさんになっちゃったからね」と教えてあげると、「ふーん」と考え込んだり「かわいそうだね」と言ったりしながら、飼育ケースを消毒したり餌を刻んだり、様々な「手間」に取り組むのです。テンジクネズミ（モルモット）は、1匹1匹に名前がつけてあり、子供たちには自分の担当する個体名を記したカード作りしてもらいます。雄雌の区別、体重、生年月日、兄弟姉妹、お乳の数などを記入し、足型スタンプを押します。もちろん、敷ワラを整え餌の準備もします。暖かい

時期であれば、毛をきれいにするためにシャンプーにも取り組んでももらいます。ウサギは、爪切りや毛のブラッシングなど、体の手入れをしても

らうのが定番です。また、1匹あたりの餌を見本で見せ、自分の担当する部屋のウサギの数にあわせて、野菜やペレットを準備してもらいます。運動場のファン掃除にも取り組みます。

こうして、「抱く」「触る」「遊ぶ」対象だけの動物というイメージではなく、毎日安心して過ごせる衛生的な場所を整え



栄養を考えた餌を準備する、そのひとつひとつの「手間」の積み重ねが「世話」なんだと理解するのではないのでしょうか。

並木 美砂子  
(Misako Namiki)



### 小動物コーナー日誌より

- お母さん「いい子いい子してね」というと、1才半くらいの子が自分の頭をなでていました。(9月24日)
- 小学校1年生くらい女の子が、ハツカネズミのしっぽを触りながら「しっぽがのびるよ」(10月2日)
- 小学校3年生くらい女の子が、「鳥のウンチは見たことあるけどおしっこは見たことない」(10月17日)



## 動物公園の植物…⑬

The plants in the Zoological Park

### エノキ

エノキは、ニレ科エノキ属の落葉高木です。山地に生え、大きいものは樹高25m、直径1.5mにもなります。

分布は、本州・四国・九州となっています。

樹皮は、厚く灰褐色で斑点があり、裂け目などはなく、ざらざらしています。

材は黄褐色から淡黄色で、建築材やラケットの枠などの器具材に、また、ケヤキの模擬材としても使われるそうです。

葉は互生し、長さ4~10cmの広卵形、ふちの上部に鈍鋸歯があり、三本の葉脈が目立ち、左右不对称が特徴です。表面は濃緑色、裏面は淡緑色です。日本を代表する蝶のオオムラサキはエノキの葉に産卵し、幼虫は葉を食べて育つそうです。

花は雌雄同株で、4~5月頃に淡黄褐色の小さな雄花と両性花が開花します。雄花は本年枝の下部に集まってつき、萼は4裂、雄しべが4個あります。両性花は上部の葉のわきに1~3個つき、雄しべ4個と雌しべが1個あります。

果実は直径6~8mmの卵状球形で果柄は長さ5~15mm、10月頃に赤褐色に熟します。

江戸幕府の二代目将軍の徳川秀忠は参勤交代制度の確立のために街道の整備を命じたそうですが、その際、街道の両側にエノキを一里ごとに植えさせたといわれます。一里塚といい、今でも旧街道筋には「二本榎」という地名もあるそうです。

現存する一里塚にはエノキ、ムクノキ、ケヤキが植えられていることが多いようです。

エノキがなぜ植えられたか、ある説によると、将軍が「良い木を植えよ」と言ったのを家臣が「エノキを植えよ」と聞き間違えたのではといわれています。

動物公園のメインモール脇や、西ロケットから園内に向かう小動物ゾーンなどに大きなエノキが見られます。

立派で、それぞれ個性のある樹木の姿です。

齋藤 哲朗 (Tetsuro Saito)



エノキ



## 健康管理センターから

From Animal Health Center

### 「スローロリス新着」



展示直後の様子

今年8月7日にスローロリスの雄2頭が、新着しました。当園では1985年2月15日から1992年1月13日まで、全部で7頭のスローロリスを飼育していましたので、今回は7年ぶりの再登場となります。

スローロリスは霊長目ロリス科に分類される小型（頭胴長約30cm・体重約600g）の夜行性のサルで、北はインドのアッサム地方からタイ、ミャンマー、インドシナ半島からマレーを経てスマトラ、ジャワ、ボルネオまで、東南アジアの熱帯雨林に広く生息しています。食物は葉、果実、小鳥、昆虫、鳥の卵など様々です。スローロリスの名のごとく動作は実に緩慢で、夜の生活に適応してフクロウのような大きくて丸い目をしています。

現在、日中はケージの中で体を丸めてボールのようです。

スローロリスはワシントン条約「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」の附属書Ⅱに該当し、国際取引を規制し保護されています。この2頭は、今年4月に密輸が税関で見つかり、通産省からの依頼で緊急保護一次収容です。（スローロリスはペットとして人気があるようです。）

来年1月からは農林水産省で、エボラ出血熱とマールブルグ病という人と動物に対して重篤な急性の感染症を対象疾病としてサルの輸入検疫が始まります。サルは他にも人へ危害を及ぼす疾病をもっている可能性があり、ペットにする場合には注意が必要です。

この2頭は、当園内動物病院での検疫が終わり次第（この記事が発行される頃には）、動物科学館1階にお目見えする予定です。

中村 誠 (Makoto Nakamura)



# 動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

## '99年7月1日~'99年9月30日

- 7月 2日 アミメキリン (雌サツキ), 左後肢を痛めたため, 本日より当分の間キリンの展示休止
- 7月 5日 ワタボウシパンシエ (雄2, 雌2), 繁殖用貸出で, 富山市ファミリーパークへ搬出
- 7月 8日 ヒオドシジュケイ (雄1), 心筋出血で死亡
- 7月12日 イヌワシ (雄1), 多臓器不全で死亡
- マガモ (雌2), 検疫明けでスイギウ池へ
- 7月15日 ゾウ会議幹事会に, 浅野出席 (ズーラシア) にて
- 7月20日 筑波大学学生 (日中, 長本), 本日より学芸員実習開始 (31日まで)
- 7月21日 **第15回サマースクール開催 (23日まで)**



- 7月27日 ニシローランドゴリラ (雌モモコ), 繁殖用貸出で, 東京都恩賜上野動物園へ搬出
- 7月28日 日本大学学生 (青木), 本日より学芸員実習開始 (8月7日まで)
- 7月29日 **コサンケイ (雄1, 雌1), 東京都恩賜上野動物園より受贈**



- 7月31日 シロガオマーモセット (雄1, 雌2), 動物交換で搬出

- 8月 3日 市教育センター主催, 生活科研修会 (参加者29名), (対応, 子ども動物園職員)
- 東京農業大学学生 (井上), 本日より学芸員実習開始 (13日まで)
- 8月 6日 中学生職場訪問あり (千葉市立朝日ヶ丘中学校1名)
- トナカイ (雌1), 繁殖
- 8月 7日 スローロリス (雄2), 緊急保護で新着
- 8月13日 ギンケイ (雄1), 横浜市野毛山動物園より受贈
- 8月16日 東京大学学生 (坂谷), 本日より獣医実習開始 (25日まで)
- 8月26日 麻布大学学生 (鹿野), 本日より学芸員実習開始 (9月10日まで)
- 8月27日 ココノオビアルマジロ (雌1), 出血性大腸炎で死亡
- ポタンインコ (2羽), 緊急保護で新着
- 9月19日 「ワンポイントウォッチング」開催 (アフリカハゲコウ) (講師 飼育課 千葉)
- 9月25日 カオムラサキラングール (雌1), 繁殖
- 9月26日 **「動物愛護週間特別講演会」開催**  
ーゾウのはなし・不思議な構造についてー



(講師 宗近副園長)

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

## 編集後記

みなさまご存知のことと思いますが, 今年10月28日に, 当園から上野動物園へお嫁入りしたモモコ (ゴリラ) のお嬢さんビジュが突然死しました。1年後, かわいい子どもを連れてきたモモコが再び当園に…, と思っていた矢先の出来事でしたので我々ニューススタッフも肩を落としております。後は, 本文の記事「飼育レポート」にもあるように, 淡い望みを願うばかりです。どうぶつこうえんニュース次回発行予定は, 平成12年3月1日です。

(白井 剛)



モルモット

